

プレスリリース

特別展

サムライ・アート展

—刀剣、印籠、武具甲冑、武者絵、合戦絵—

Samurai Art: The Warrior Aesthetic of Feudal Japan

刀剣や甲冑をはじめとする武器・武具類は、実戦で用いられるのと同時に、武威や家格を誇示する宝物として珍重され、鑑賞の対象とされました。優れた工芸技術と武家文化の隆盛を背景に、刀などの武器・武具は日本独自の発展を遂げ、今日では「サムライ・アート」とも称されます。現代に伝わる武士の遺愛の品は、消費され失われた実用品とは一線を画し、いずれも武士の美意識や匠のこだわりを反映しており、贅を尽くした逸品といえます。また、歴史上の戦や軍記物語を題材とした合戦絵や武者絵には、武具甲冑を身に帯び、刀を振るって戦う侍の勇姿が澁刺と描かれています。本展では当館の収蔵品を中心として、刀剣、刀装具、甲冑、兜などを一堂に展覧するとともに、絵画資料に描かれた武士の姿を紹介し、「サムライ・アート」の魅力に迫ります。



刀剣、印籠、武具甲冑、
武者絵、合戦絵

サムライアート展

SAMURAI ART: THE WARRIOR AESTHETIC OF FEUDAL JAPAN

国宝・重文
5点出品!

2024 10.12(土)~12.22(日)

前期: 10/12(土)~11/17(日) 後期: 11/19(火)~12/22(日)

開館時間: 10:00~17:00 (16:30 受付終了) 休館日: 月曜日 ※10/14(月・祝)・11/4(月・祝)は開館、10/15(火)・11/5(火)は休館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 TEL: 042-691-4511
主催: 東京富士美術館 後援: 八王子市、八王子市教育委員会 協力: 月山日本刀職連会

◆開催概要

展覧会名： 特別展 サムライ・アート展

—刀剣、印籠、武具甲冑、武者絵、合戦絵—

Samurai Art: The Warrior Aesthetic of Feudal Japan

※同時開催

大使館の美術展Ⅲ -文化交流随想-ブルガリア共和国大使館（新館／常設展示室 第7室）

明治の写真～彩られた Nippon（新館／常設展示室 第6室）

西洋絵画 ルネサンスから 20 世紀まで（新館／常設展示室 第1-5室）

会 場： 東京富士美術館 本館・企画展示室

〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1

TEL.042-691-4511

会 期： 2024(令和6)年 10 月 12 日(土)～12 月 22 日(日)

前期：10 月 12 日(日)～11 月 17 日(日)

後期：11 月 19 日(火)～12 月 22 日(日)

休館日： 毎週月曜日、11 月 5 日(火) ※11 月 4 日(月祝)は開館

開館時間： 10:00～17:00(16:30 受付終了)

出品点数： 前後期合わせて 117 点

入場料金： 大人 1,500(1,200)円、大高生 900(800)円、

中小生 500(400)円、未就学児無料

※全ての展示室をご覧になれます

※（ ）内は各種割引料金 [20 名以上の団体、65 歳以上の方、当館公式 SNS 登録者ほか]

※土曜日は中小生無料

※障がい児者、付添者 1 名は通常料金の半額 [証明書をご提示ください]

主 催： 東京富士美術館 協 力： 月山日本刀鍛錬道場

問い合わせ先： 企画広報課 TEL.042-691-4511 FAX.042-691-4623

E-mail: toiawase@fujibi.or.jp

◆展示構成

第1章——紫電一閃！サムライの魂、刀剣

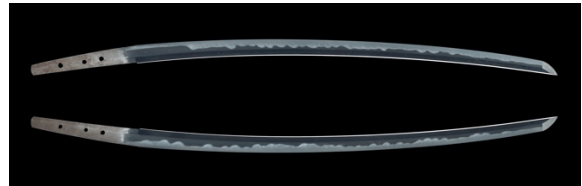
我が国独自の鍛冶技法で製作された日本刀は、一千年以上の伝統を有しています。機能性を追求した刀剣はまさしく鉄の芸術品であり、一切の無駄を省いたそのかたちや、地鉄・刃文に特有の美を見出し、鑑賞の対象とされました。刀剣は自家の格式や権威を象徴する品として尊ばれ、公の場での贈答や社寺への奉納にも用いられました。

本章では、当館所蔵の刀剣コレクションを中心に、平安時代から江戸時代にかけての刀剣を展観し、燦然と輝く刀剣の美をご堪能いただきます。



※左：国宝《太刀 銘 正恒》 備前 平安時代後期、11～12 世紀
ふくやま美術館(小松安弘コレクション) [前期展示]

※右：国宝《太刀 銘 吉房》 備前 鎌倉時代中期、13 世紀
ふくやま美術館(小松安弘コレクション) [後期展示]



※左：重要文化財《太刀 銘 有綱》 伯耆 平安時代後期、12 世紀
東京富士美術館 [通期展示]

※右：重要文化財《太刀 銘 一》 備前 鎌倉時代中期、13 世紀
東京富士美術館 [通期展示]

第2章——武具繚乱！サムライの装い

武士の命を守る武具甲冑・兜などは、桃山時代から江戸時代にかけて家柄や威容を表す意匠が施されるなど実用性を超えて洗練度をまし、注文した武士の美意識を反映するものとなっていきます。そうした武具の制作には様々な分野の多くの職人が関わり、熟練の技術と手間を惜しみなく注いで武士の求めに応じました。

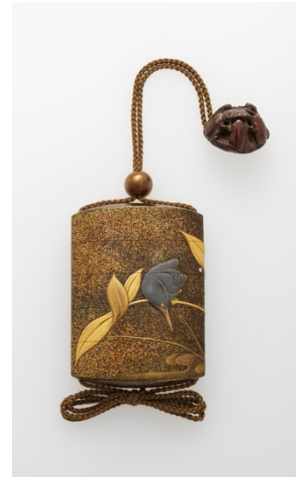
本章では武士の装いを今に伝える大名家ゆかりの甲冑、兜、陣笠、陣羽織などの武具類に加え、拵・鰐等の刀装具、そして江戸時代を通じて武士の装身具、愛玩・贈答品として発展した印籠を展示します。現代に伝えられる武士のこだわりの美を感じていただければと思います。



※左：島津斉彬所用《白糸裾萌葱紺威鎧 兜・大袖・小具足付》

江戸時代中期、18世紀 東京富士美術館 [通期]

※右：《鰐形兜》江戸時代中期、18世紀 東京富士美術館 [通期]



※左：《黒蠟色塗鞘大小拵》江戸時代後期、19 世紀 東京富士美術館 [通期]
※右：《沢瀉翡翠蒔絵印籠》江戸時代後期、19 世紀 東京富士美術館 [通期]

第 3 章——英姿颯爽！描かれたサムライ

歴史の転換点となった戦は古くより、『平家物語』などの軍記物語をもとに、さまざまな画面形態で描かれました。室町時代以降、合戦図は屏風の大画面に描かれるようになり、江戸時代には複数場面を組み合わせた作例や、著名なワンシーンを抜き出した作例など、多様な合戦図屏風が制作されました。

合戦図屏風で好まれた主題は浮世絵でも人気を博し、武者絵という一大ジャンルを形成しました。とりわけ、「武者絵の国芳」と謳われた歌川国芳とその門下による作例には、自由な画想によって描かれた躍動的な武士の姿を見ることができます。本章では、江戸時代の源平合戦図屏風や武者絵とともに、明治時代以降の作例をあわせて紹介し、時代を超えて描き継がれた侍のイメージをたどります。



※左：今治市指定有形文化財 伝 土佐光起《源平合戦図屏風》左隻
江戸時代前期、17 世紀 今治市河野美術館 [通期]
※右：今治市指定有形文化財 伝 土佐光起《源平合戦図屏風》右隻
江戸時代前期、17 世紀 今治市河野美術館 [通期]



※左：埼玉県指定有形文化財 海北友雪《一の谷合戦図屏風》左隻
江戸時代前期、17 世紀 埼玉県立歴史と民俗の博物館 [後期]
※右：埼玉県指定有形文化財 海北友雪《一の谷合戦図屏風》右隻
江戸時代前期、17 世紀 埼玉県立歴史と民俗の博物館 [後期]



※菊池契月《落花》 明治 37 年(1904) 水野美術館 [前期]

エピローグ——サムライが愛した美の伝承

明治以降、武士の時代の終焉とともに刀剣や武具甲冑、印籠などは注文主を失って急速に不遇の時代を迎えることとなりました。そうした厳しい時代状況の中で、日本刀は日本独自に育まれた美と技術を伝承するため、美術刀剣として新しい出発をし、刀鍛冶や研ぎ師、刀装具の職人が伝統を未来につなぐために日々制作に取り組んでいます。エピローグでは現在第一線で活躍する刀匠による刀剣を展示し、現代に伝承されるサムライの美をご覧ください。

◆会期中のイベント(予定) ※詳細につきましては今後ホームページ
www.fujibi.or.jpにてお知らせします。

10月19日(土)富士美茶会

11月 2日(土)大使館講演会「ブルガリアの文化」

11月 9日(土)ワークショップ「山美イレン先生のブルガリア刺繍」

11月17日(日)サムライ・アート展担当学芸員によるギャラリー・トーク

11月30日(土)フィリップ先生のダンスワークショップ

～サムライ・アート編

11月30日(土)ティータイムライブ「ヴァイオリン&アコーディオン」

12月 1日(日)サムライ・アート展担当学芸員によるギャラリー・トーク

12月 7日(土)ワークショップ「マルテニッツァ作り」

「キリル文字を書こう」

12月 8日(日)サムライ・アート展担当学芸員によるギャラリー・トーク

12月14日(土)創茶会による呈茶席

12月21日(土)富士美茶会

東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。

「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受賞。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロ可可・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。



この件に関するお問い合わせ先
東京富士美術館 企画広報課

TEL.042-691-4825 FAX.042-691-4623 Email:toiawase@fujibi.or.jp

〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1